



薬学と農業の視点で、北里大学と新たな事業連携！

相模原市では、農業分野での構造改革特区(法人による農業参入)などにより、新たな農業の創出を目指していますが、この度、新たな取組みとして、北里大学と事業連携を図ることになりました。「薬学」と「農業」といった異なる分野同士の連携事業の内容についてご紹介します。

6月2日(木)、相模原市と北里大学は、健康・環境・ビジネスの視点による「新都市農業推進協定」を締結しました。今後は、本協定に基づき、地元農家の方々のご理解をいただきながら、北里大学が学外に開設予定の「サテライト型モデル実験園」を中心に、連携事業を展開します。(現在手続中・下溝・磯部地区に7月中開園予定)



北里大学の柴学長と協定締結



近年、不法投棄や違法転用で問題となっている農地の活用法が検討されていますが、そうした北里大学は、相模原キャンパス内にある「薬学属薬用植物園」が手狭になってきていることや、植物の普及啓発を進めるために植物園を拡大しよう

としていました。そこで、地権者の協力を得て、遊休農地を大学が借り受けて実験園を設置し、市と連携を図りながら薬用植物に関する様々な事業を実施することになりました。

ここでは、古来、相模原市内に自生していた「ミシマサイコ」他数種類の薬草を有機無農薬で栽培し、農業者や市民の皆さんを対象とした薬草栽培体験や講習会を実施していきます。また、新たなビジネスチャンスになるよう、薬草の加工・流通システムの開発も予定しています。秋にはこの実験園でミシマサイコの可憐な花がご覧いただけると思いますので、ぜひ皆さんも足を運んでみてください。

連携事業の第1弾として、6月4日(土)には、「薬用植物シンポジウム」を開催しました。当日会場は300人を超す参加者で賑わいました。中には、農業としての薬草栽培に興味を示された参加者もおられました。写真は、講演後の薬用植物園見学の様子です。

